

看護小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団 恵正会	代表者	二宮 正則	法人・ 事業所 の特徴	【特徴】 医療・介護で連携し柔軟にサービス提供することで、在宅生活の中で医療必要度が高くなっても家族が安心して介護を継続でき、利用者が住み慣れた自宅で生活を継続できるようサポートします。本人・家族の思いに寄り添い支援しています。
事業所名	看護小規模多機能ホ ーム やすらぎ	管理者	長田 美紀		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2 人	人	1 人	1 人	人	2 人	人	6 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認			改善計画に関して、コロナウイルス感染拡大で実施が難しいこともありますが、	会議や業務改善を通して、あらためて外部評価の仕組みをスタッフ全員に周知し、認識を深くすることで意欲的に取り組める環境をつくる。その上で改善計画を定期的に確認し、達成までの進捗状況を全員で共有することで、確実に一つずつ達成していけるようにする。引き続きコロナウイルス感染対策に努めていく。
B. 事業所の しつらえ・環境			コロナウイルスの影響で、去年の開設から事業所見学ができていなかったが本日（4/13）見学し、清潔感があり、ゆったりしている印象を受けた。医療必要度の高い利用者も利用ができ、本人・家族も安心して利用できていると満足感が伝わる。	地域に開かれた事業所を目標に、玄関の外から入りやすい工夫をしていく。スタッフの対応・言葉遣い等の接遇を更に向上していく。
C. 事業所と地域のかかわり			上中3区で、地域の「見まわりネットワーク」の取組みを本格的に実施していく。協力をお願いしたい。地域の行事も当面は中止となっている。可部地区は、少子化が進み、保育園の閉鎖するところも多い現状あり。高齢化も進む。	地域住民との交流の場を増やせるよう、地域行事への参加、事業所内で行事を実施していく。（コロナウイルス感染対策をした上で実施。） 見まわりネットワークの体制づくりに地域協働で取り組む。+

D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み			<p>コロナウイルスのこともあり、外出は難しかったと思うが、散歩などしていたのか質問あり。</p>	<p>行事への参加や散歩など、気分転換できる時間を積極的に作っていく。</p>
E. 運営推進会議を 活かした取組み			<p>運営推進会議で、取り組みなどの報告を受けわかりやすかった。</p>	<p>会議を通して、地域の要望や意見を伺い、一緒に取り組んでいく。情報共有の場として、運営推進会の時間を大切にしている。</p>
F. 事業所の 防災・災害対策			<p>地域の防災訓練はコロナウイルス感染予防の観点から中止。今、開催時は参加してもらいたい。昨年、福祉避難所の協定を締結。</p>	<p>事業所での定期的な防災訓練を計画し実施する。日程決まれば、近隣等へ案内を送る。事業所の防災計画を見やすい場所に掲示する。</p>